

2023 春休み海外修交流事業

カンボジア平和教育学習と高床式ホームステイ
&
アンコールワット見学
事業報告書



(公財)国際青少年研修協会

目 次

1. 団員名簿	1
2. スケジュール	2
3. 日本文化紹介アンケート	3
4. 研修日記	4
5. 感想文	7
6. リーダーメッセージ	10



参加者名簿



No.	名前	学年	性別	住所（一部）
1	田原 夏海	高1	F	長崎県
2	田邊 いろは	中1	F	神奈川県
3	岩本 花恵	中2	F	埼玉県
4	溝江 蘭唯	小4	F	神奈川県
5	藤東 佑和	中2	M	福島県
引率	豊田洋一		M	東京都

カンボジア平和教育学習と高床式ホームステイ&アンコールワット見学 スケジュール



	月日	時間	日 程
1日目	3/26 (日)	16:00	事前研修会
2日目	3/27 (月)	9:30 13:50 16:00 16:50	ベトナム航空310便にてホーチミンへ ホーチミン着 ベトナム航空920便にてプノンペンへ プノンペン到着後専用車にてホテルへ (アジアホテル)
3日目	3/28 (火)	終 日	プノンペン市内観光 (王宮、博物館、ショッピング)
4日目	3/29 (水)	終 日	孤児院・キリングフィールド、ツールスレーン、
5日目	3/30 (木)	午 前 午 後	CMAC 地雷・不発弾博物館訪問 トロピアンコ村へ移動 着後ホームステイへ
6日目	3/31 (金)	午 前 午 後	トロピアンコ小学校にて交流活動 各家庭にて生活体験、カレーパーティ
7日目	4/1 (土)	終 日	シムリアップに向けて出発、タ・プロムホテル到着
8日目	4/2 (日)	午 前 午 後	アンコールワット見学 アンコールトム見学、ショッピング
9日目	4/3 (月)	終 日	トンレサップ湖の水上生活者見学 Hikari International School、シムリアップ空港へ ベトナム航空812便→ホーチミン
10日目	4/4 (火)	00:10 ↓ 8:00	ベトナム航空300便→成田空港





日本文化紹介アンケート



1. 日本文化紹介はどこでしましたか？
・孤児院(3/29)、トロピアンコ村小学校(3/31)、インターナショナルスクール(4/3)
☆特に好きだったメニューは何ですか？
卵料理 肉炒め 野菜炒め
2. 日本文化紹介で何をしましたか？
折り紙、けん玉、ヨーヨー、習字（名前を漢字にしてあげる）
反応はどうでしたか？
とても楽しそうだった。
習字は最初はあまり人がいなかったが、だんだん人気になっていった。
喜んで遊んでくれた。
3. みんなで歌った歌はなんですか？
「大きな栗の木下で」
4. 人気のあった日本文化はなんですか？
折り紙（紙飛行機、ハートを折って自己紹介を書く）
5. 工夫して良かったことは？
鶴は難しかったので紙飛行機にした。
小学校で前に立って教える人は一人にして周りで教える人を多くしたこと。
リコーダーを持っていったこと。（孤児院の子が、これ好きと言ってくれた）
けん玉やヨーヨーの使い方を教えてあげた。
6. 他にどんなことをしたらいいと思いますか？
みんなで遊べるボードゲームのようなもの。かるた？
体を動かせるもの。
7. その他に気づいたことはなんですか？
言葉がわからない分、表情、ジェスチャー、相槌が大切だと思った。自分から楽しむとみんなも楽しんでくれる。また、みんなが楽しんでいると自分も楽しくなったりする。



研修日記



3月27日

ワクワクでいっぱい。

楽しみで飛行機に乗った。鼻血が出たり気持ち悪くなったりと大変だったけど無事着いた。

ビザも書いた。

夜はイオンで夕食を食べた。

日本語が書いてあるものがたくさんあった。

ドラゴンフルーツ、パパイヤなどを食べた。

3月28日

- ・午前中から王宮を見に行った。

戦争以前は金や宝石などの高級品が多く取れてカンボジアはアジア1番の裕福な国だった。

だけど戦争などによりなくなってしまった。仏教のお寺では亡くなった日本人記者の石碑を見ることができた。寺では子供も働いていた。セントラルマーケットでは胡椒、サングラス、木の彫り物を買った。マーケットは活気がすごかった。昼食ではとても辛い唐辛子を食べた。夕食はイオンのフードコートに行った。こっちの食べ物は香辛料が少しあった。癖になる味だった。日本の協力により外国との交流や橋などができたらいい

- ・たくさんお寺を見た。帽子と靴を脱いで入った。最後に行ったところ、入り口がたくさんあり、寺の正面は訪れた人用、王様専用の入り口もあった。王様はそこに住んでいるらしい。庭の手入れがとてもされていて綺麗。仏教の人がとても多い。仏教は金色が1番の色でヒンドゥー教は白色であった。だから、これらのものはほとんど金色と白色でできていた。屋根には蛇のしっぽの形をしたものがたくさん付いていた。蛇は水の神様とされていた。入り口の狛犬のような猿がいた。階段の手すりに頭が7つの蛇がいた。銀寺、床に1枚1キロの銀河500枚敷き詰めているのでそう言われている。カンボジアは金がたくさん取れていたため、金のものがたくさん収められていた。小さな仏像、大きな仏像、王様の移動の時に使われていたもの、人々が収めた小さな仏像など。しかし、戦争で良いものはとられてしまったらしい。カンボジアは昔、金などがたくさん取れていたため、隣の国に攻められてしまった。アイスも食べた。チョコアイスはずっしりときたいい香りの花があって、その花の匂いを嗅いだらお釈迦様からいいことがありますと言われた。セントラルマーケットで洋服とスノードームとドライマンゴーを買った。洋服は値切って22ドルを18ドルにしてもらった。カシューナッツは今がおいしいらしい。楽しかった。

3月29日

- ・午前中はクックマ孤児院に行った。孤児院によくくると思われる男性は子供たちとバンドをやっているらしい。お金だけの支援だけでないのも魅力だと思う。この孤児院の資金の8割は日本からの寄付。午後は処刑場と監獄に行った。骨が多く収められている慰霊塔にはとても驚いた。これがほんの数十年前のことだということだから驚きだ。平和を伝えるうえで負の遺産というのは残すべきだと強く思う。映画でこのことが世界中に広がったと聞いたが映画で広まったことにびっくりした。虐殺された人数は300万人ほどだと政府は発表していたが中国との兼ね合いで最近はいくらか見直もっているらしい。
- ・孤児院に行った。道の端で野菜や肉果物を売っている。道には人の名前が付けられているものもある。朝と夕方は仕事に行く人が多いので、道が混んでいる。孤児院には4歳から高校生がいた日本のNPOが支援している。伝統的な踊り、猿の踊りを見た。そして、めちゃくちゃカッコいいバンドを見たり、歌ったりした。その後、折り紙を追ったり、名前を書写で書いたりした。とても喜んでくれて嬉しかった。みんな日本語ができていて凄いなと思った。キリングフィールドはカンボジアに300カ所ほどあったらしい。殺されたのは主に夜で鳴き声が聞こえないように共産主義の音楽を流していた。まだ見つかっていない骨もたくさんある。自分で穴を掘らせて後ろで手を縛られて殺されて埋められた。ここでは、もともとポル・ポトの人だった人も殺された。怪しい

と思われた、裏切った人、そしてその人の家族など。キリングフィールドと言う映画があり、その映画でキリングフィールド名前が広まった。ツールスレンはもともと学校。20,000人ぐらいいた中で、7人だけが生き延びた。生々しいまま当時のものが残っていて衝撃を受けた。言葉が思い浮かばない位。二度と同じような事は繰り返してはいけないと思った。この数十年でこんなことが起きていたことに驚いた。犠牲者のことを思うと心が痛い。

3月30日

- 午前中はシーマックに行ってきた。長い時間が過ぎても威力は弱くなることはなく今も罪のない国民が苦しんでいるとのこと。午後からはトロピアンコ村に向かった。
この村の人々はおおらかだと思う。また鳩の料理には驚いた。想像していた臭みなどはなくとてもおいしかった。子供達と遊べて楽しかった。だけどみんなパワフルで僕が疲れた。
- トロピコ村では、村長が迎えに来てくれた。村に行ったら子供たちがたくさん待っていてすぐに近づいてきてくれた。小さい子が多い。幼稚園、小学校位。ちょちょや、つんつんをよくしてくる。走るのが早い！家のお母さんは、優しく、いい人なのがすぐにわかった。夕ご飯は、お米とキノコと肉の煮物。味のついた干したであろう魚。あともう一つ、スイカ。お風呂は水浴びの布をつけて水瓶まで行って、そこで脱いでから水を浴びた。水は少し冷たかった。水の中に魚がいてすごい驚き。トイレは紙を使う習慣がないらしい。和式のトイレで、バケツですぐ水を流すといった方式だった。この日は祭りをしていたらしく、大きな音で音楽がずっと鳴っていた。歌っている人と踊っている人がいて、踊っている人は、フラダンスに少し似ている動きをしていた。寝るときはかやを吊ってくれた。扇風機が回っていて、風が気持ちいい。子供たちは、お菓子をとてもほしがったり、シャボン玉を楽しんでいた。星がきれい！みんな何かをしていると興味津々に見てくる。白い牛や犬や鶏がいた。道は歩きやすい。みんなのびのびと暮らしている。家は二階で、ご飯を食べて寝た。床は竹みたいなもんだでできていて隙間がある。一つ一つの家で家族と言うよりは村全体で家族という感じだった。

3月31日

- 朝はライギョの干物を食べた。美味しかった。食事を済ませると、農業用の機械にトラックの荷台をつけたの乗り物で学校へ向かった。学校の子供たちはとても可愛かった。
午後は村から1キロほどの距離にある寺院に子供たちに連れて行かれた。多分子供たちのアジト的なものなんだろう。村の放任主義の親の考え方も面白そうだ。5時からカレーを作った。美味しかった。この2日間でいろいろなことを感じた。言葉がなくてもここまで伝わることに驚いた。
- 朝ご飯は薄い卵焼きと昨日の魚をほぐしたものと緑色の薄い焼いたもの。あ、あとスイカも半分。小学校に行った。小さい子供たちがたくさんいた。午前中は小学生で午後は違う子が行くみたい。最初のクラスは1番小さい子で、折り紙の鶴を負った。鶴は難しかったみたいで、みんながやってあげる感じだった。だけど、楽しそうよかった。次のクラスはもう少し大きくなった子だった。鶴は大変すぎたので、紙飛行機に変更。みんなが横で少し教える位でできた。飛ばすのがとても楽しそうだった。その次のクラスは象と紙飛行機を作った。最後に手でハートを作ってくれて可愛かった。最後のクラス、ここは大きい子が多かった。ほとんど教えなくても全員できた。椅子と机は大体3人ぐらいが詰めて座れる位の長机と長椅子だった。歌も歯磨きもみんな一緒にやってくれた。歯磨きの説明はやっぱり高校生はうまいなと思った。私もいつかあんな風に説明できるようになりたい。これらが終わった後、外に出て写真を撮った。その後は子供たちに追いかけて走り回って。すごい疲れた。子供たちは楽しそうだった。私も楽しかった。帰りはトラクターみたいなものに乗って帰った。小学校の前でアイスを食べた。あずきバーみたいだった。洗濯をした。水浴び場でした。たらいに水を入れて石鹸で洗った。家の手すりや外の部屋みたいなのにつけて干した。カレーを作った。ジャガイモとニンジンと玉ねぎとかぼちゃと肉。カレーを待っている間、みんなで踊った。ノリノリで楽しい！カレーおいしかった。村の子供をたくさん呼んだ。ローさんが先頭に立って踊りを踊っていた。手をつないで走ったりした。仲良くなれた気がする。すごい楽しかった。

4月1日

- 朝は子供達と別れシュムリアップに向かった。伝統舞踊を見た。日本とは大きく違っていて面白かった。日本人がプノンペンに比べていっぱいいた。

4月2日

- 夜はパブストリートに行った。色鮮やかな光が光っていた。外国人が多かった。ちょっと怖いような、ワクワクするような、そんな感じ。夜ご飯は、ハンバーガーとピザ、イタリアの料理屋さんぽかった。久々のハンバーガーでおいしかった。ピザのピックは本当に大きい。それにプラスして久々の生野菜！野菜のおいしさを感じた。セブンを見つけたときの嬉しさ！今日いろいろな種類のトイレに入って、日本のトイレの綺麗さを身をもって感じた。
- 今日はアンコールワットに行った。想像していたよりは大きく驚いた。観光客が大勢いたがコロナ前はもっといたそう。アンコールワットの規模の大きさにびっくりした。昔の人がここまでしたと思うと本当に驚いた。歴史的な建造物を守るために日本も協力しているそう。壁画は失敗できないと聞いて、作っていた人には重圧だなーと思った。季節や時間によって見え方が変わるらしいから違う時期にも行ってみたい。

4月3日

- トンレサップ湖の上にある家にはワニがいた。水が汚すぎてびっくりした。赤土だからだと思う。日本語学校では紙飛行機に興味を持ってくれて嬉しかった。またみんなで作りたい。



感想文



中2 藤東 佑和.

今回のカンボジア研修を通して価値観が大きく変わり日本にいたらわからない多くのことを知ることができた。ホームステイをしたトロピアンコ村は日本のように便利で楽しいものがたくさんあったわけではなかったが、村の人たちはいつも笑顔だった。カンボジア人の助け合いの精神など日本人が見習うべきところの多さに気がついた。またこの研修では戦争、紛争と、その逆の国際協力とは何か知ることができた。シーマックやキリングフィールドといった争いがうんだ負の遺産を見ることができた。戦争が終わってもなお人を傷つける非人道的な恐ろしさを感じた。キリングフィールドで見たたくさんの骸骨には衝撃を受けた。罪のない人々が無惨にも殺されたということそれは大昔ではないということにはわかには信じれなかった。一方で国際協力が何かということをも知れた。日本などの国々がカンボジアの復興のために地雷除去に協力したこと橋の建設を助けたそう。また国際協力とは国同士が支援することだと思っていたが、孤児院では日本のNPO 法人が子供たちを支援していることがわかり新しい国際協力のかたちを知ることができた。今回のカンボジア研修は僕の人生に大きく影響を与えたと思う。

「10 日間以上に感じた 10 日間」 中2 岩本 花恵.

「こんなにも濃い 10 日間はないだろう」これは、カンボジアにいる途中も、帰ってきてからも、ずっと感じていることです。本当に毎日のように驚きがあったので、どこからどのように書けばよいかわかりませんが、今回はその中のいくつかを書きたいと思います。

ワクワクでいっぱい気持ちで始まった今回の研修ですが、分からない言葉、高い気温、今にもぶつかりそうにたくさんの車、走るたくさんのトゥクトゥク、観たことのないような屋台、綺麗な建物、珍しいものに不安と期待の混ざった不思議な気持ちになりながらも目を輝かせていました。

今回の研修では寺院にたくさん訪れました。プノンペンで見た寺は宗教をよく表した色が多く使われ、細かい装飾にまで意味が詰まっていた。カンボジアは昔たくさん金が取れたということで豪華な建物で多く見られ、その時の国の様子を表していると感じました。アンコールワットは想像していたものより大きく高く圧倒されたあの感覚を今も覚えています。一番高いところに上ってみた景色は忘れられません。壁画がたくさん書かれていたのですが、そのストーリーが面白く見ているのが楽しかったです。昼間でも、夕暮れでも、どこから見る景色もすべてきれいでした。

村では子供たちと遊びました。子ども達はみんな可愛く、遊ぶのもとても楽しかったです。暑さに慣れていなかったせいか、いつものような体力が失われ、昼間にはしゃぐ時間が減ってしまったことは心残りです。しかし、夜になって涼しくなってからや孤児院、小学校では盛り上がり踊ったり歌ったり追いかけたり追いかけられたり、中学生であることを忘れてとても楽しみました。ホームステイでは私の家に通訳はいなかったのですが、もう一人の子がホストファミリーの言っていることをジェスチャーなどから理解していてとてもすごいなとずっと感じていました。私も少しずつ理解できるようになったので良かったです。言葉が通じなくても理解しようとしていたり、楽しく遊んだりできることを実感したホームステイでした。また、1つ1つの家で家族というより、村全体で家族というような気がしたとともに時の流れがゆっくりと感じられ村の人々の温かさも感じました。

この研修の中で一番心に残っていることはキリングフィールドとツールスレンです。50 年しかたっていないということや 50 年しかたっていないことによる生々しさと起きた出来事の残酷さにずっと衝撃を受けていました。この日に聞いたこと、見たものはこれからも絶対に忘れることはない、そう感じています。ポルポトをはじめは良い国を作ろうとしたのになぜこのような結果になってしまったのか、、、。私は罪のない人を殺さなければよかったと思っています。2 度とこのようなことが起きないことを願っています。

もう一つ驚いたことがあります。カンボジアに日本を話せる人が多くいたことです。そして、日本の会社や税金でカンボジアに橋を架けたり、遺跡の修理をしたりしているということです。カンボジアの為になっていると思うと嬉しく思います。

帰ってきて、日本の水がいかに安全かを感じたのもこの研修です。特にトイレのきれいさを感じました。しかし、カンボジアが日本よりきれいじゃないから悪いということはありません。その地域にはその地域の

良さも不便なところもあって、その中で楽しく暮らしている人がいる、それはカンボジアも日本もそれ以外の国もどこも同じだと今回感じました。

ここに書いたのはこの10日間の一部でしかありません。あの毎日がとても忙しく、のんびりすることが無いほどで帰ってきてから3日たった今でもまだ疲れがとりきれません。しかし、この疲れはこの研修でたくさんの事を感じ、学んで、衝撃を受けて、思いっきり楽しんで、成長できたということではないかと思っています。毎日のようにこんな貴重で大事な経験をすることができ、とてもうれしいです。一緒に行ったみんな、カンボジアの皆、ありがとう。

高1 田原 夏海

「カンボジアってどこ?」「危険じゃないの?」研修前、カンボジアに行くと言うと、ほとんどの人が何かしらの疑問を投げかけてきた。実は私も行くことを決めるまではカンボジアについて知っていることはほとんど無かった。だけど、出発までにトゥールスレン、キリングフィールド、大虐殺の歴史…いろんなことを調べる、実際に行くことで、日本にいたら絶対に感じられないことを肌で感じて学ぶことが出来た充実した9日間だった。

- まず、道路を見るとバイクがとても多く、中学生くらいの子も普通に運転していて、あちこちからクラクションが聞こえてきた。靴を履いている人はほとんどおらず、みんなサンダルやスリッパを履いていた。日本のように整然としている感じはなく、開放感があって自由な雰囲気。建物は古い建物があるかと思えば、その横に高いマンションや巨大スクリーンがあったりちぐはぐな感じで、誰かが言っていたけど、「都会と田舎を混ぜたみたい」だった。

- トゥールスレンやキリングフィールドについては調べたり、ユーチューブで見たりしていたけれど、実際行ってみて、どれほど悲惨で残酷なものだったかが嫌というほど分かった。拷問をする方もされる方も私達同じ人間なのに、拷問する方は、人間とは思えないような行為をしているし、される方も人間が受けるものとは思えない酷い扱いを受けていた。人間として生きている人がいない世界だった。その世界が1人の人間によってつくられたことが信じられなかったし、それがそれがたった数十年前に行われたことがショックだった。落ちている服や骨、埋められた穴やたくさんの写真を見たり収容所の個室に入ってみたり、説明を聞いたたびにそこにいた人のことを想像してみたけど、ただただこわくてきちんと想像することができなかった。実際にそこにいた人は「こわい」では表せないくらいの恐怖だっただろうし、看守たちもいつ告げ口されるか分からず 人間不信になっていたと思う。

少し話は違うけど、「いつ殺されるか分からない恐怖によって人を疑い、他人にやられる前に自分が」という考えは平和活動の中でよく話題になる核抑止論に似ているなと思った。恐怖や危険感では平和や安全は維持できないし、その均衡はいつか必ず崩れてしまう、その例だと思った。トゥールスレンの写真は若い人ばかりで、争いをすると犠牲になるのは争うことを決めた人ではなく、子供、一般市民だというのはいつの時代でも変わらない事だと思った。

- 「孤児院」と聞くと、親がいない孤独、さみしそう…というイメージばかりもっていたけれどクックマに行って、今までの「孤児院」のイメージが180度変わった。孤児院にいる理由は「親がいない」だけではないなかったし、小さい子から大きい子まで たくさんの子どもたちが明るく本当に楽しそうに夢を持って暮らしていた。日本語がとても上手で、移動する時は、初体面にも関わらずさっと腕を組んでいろんなところに連れて行ってくれたことが嬉しかった。帰るときにまた来てねー!と言って 見送ってくれたのを見て、絶対また来ようと思った。応援したくなる子ばかりだった!

- 日本で戦争と聞くと、第二次世界大戦で、親や祖父母よりも前のことだから時間的にも距離あり、自分から遠ざけて考えてしまいがちだけど、カンボジアでは、私達の親が生きていたときにも戦争があっていて、身近なことに感じた。人を殺すために、一生懸命考えて工夫を凝らしてつくられた地雷を見ると、人間がした事に悲しくなった。

地雷がなぜその場所に埋められたのか、という疑問1つとっても、アメリカ、ベトナム・ロンノル、ポル・ポトなどたくさんの情報が入り混っていて、とても複雑だった。ティードさんによると、カンボジアでは地震の被害者頻繁に出ていて、ニュースに出ても「またか…」くらいの反応だそう。何の罪もない人が地雷の犠牲になるという理不尽なことがはやくなくなってほしい。

- 村の子供たちは、目がキラキラして遊んでいる時も勉強する時もお手伝いする時も本当に生き生きしていた。お菓子をあげると手を合わせて「オーブン」と言って、年下の子の分も取ってあげたり、優しかった。どこに行くにも手を繋いで一緒に行こうとしてくれて、すごく人懐っこかった。言葉は通じないし、家も年

年齢も名前も分からないけど、最初から恥ずかしがることなく近寄ってきて、身振り手振りや指差し会話帳を使って何とか言葉を交わそうと工夫してくれた。

「自動」や「電動」は何一つなく、時給自足で自分の事は自分でやる。文字通り自然と共に生きていた。私たちの豊かさの基準は物質的な豊かさだったけど、そこから離れて、生活している村の人たちの方が人間的に豊かな暮らしをしていて、村で過ごした2泊3日はいつも自分が「生きてる！」という感じだった。またいつかティータさんに連絡をしてトロピアンコ村に行きたい！

- ・アンコールワット遺跡群では、石に施された彫刻を見る度に「すごい！」「どうやって？」しか出てこなかった。800年も前に造られた場所に自分がいることを考えると不思議で、タイムスリップしたようでワクワクした。アンコールワットの第3回廊から見た外の景色が素晴らしかった！昔の人が人力でつくったと思うとやっぱりすごい。しか出てこなかった。
- ・トンレサップ湖のボートは涼しくて気持ちよかった。ボートが動かなくなった時は大丈夫か？と思ったけど、ハプニングがあって楽しかった。雨季の一寸法師状態で登校する子供たちの様子も見てみたいと思った。

日本に帰って、いつもの生活に戻って、今まで当たり前だった全てが当たり前ではなかったことに気がついた。蛇口を捻れば飲み水が出るし、お風呂も水洗トイレもあって、部屋で周りを見渡せば物で溢れていた。テレビでは大食い選手権で食べ物が山のように積まれていて、苦しそうに口に押し込む様子が流れ、その度にマーケットに居た物乞いのおじいさんや、道路で働くカンボジアの子どもの姿が頭をよぎった。私はこの研修で豊かさの価値観が変わった。やりたいこともなく、たまたま与えられた環境で何となく生きていたけれど、夢を持って強く生き活きと生きていたカンボジアの人達は私に、私もしっかり生きよう、生きなければ。と思わせてくれた。

カンボジアに行かなければ一生出会うことのなかったであろう研修メンバーの4人との出会いも宝物。空港でお別れして、1人になった時、周りを見ても当たり前だけどさっきまでいた4人がいなくて、寂しかった。9日間一緒にいてくれてありがとう！みんなで食べた昆虫の味もボンティアコーンの味もワールドウルフも一生忘れないと思う。また会おうね！♡

小4 溝江 蘭唯.

カンボジアはとても可愛い人がたくさんいました。にこにこしててとっても可愛いです。カンボジアに、日本の国旗があってとても嬉しかったです。カンボジアはとても平和な国です。カンボジア人とふれあえてとても嬉しかったです。米は細長くてちょっとかたかったです。日本の友達はとても親切でした。歯磨きは、みんな真剣に集中してやってくれて嬉しかったです。大きな栗の木下での踊りはみんなすぐ出来ていて凄かったです。ホームステイの床は竹で出来ていて隙間があり、物を落としそうで怖かったです。



引率リーダー感想



カンボジアの旅の道中、ずっと青空が続いていました。しかし、みんなの心の中は晴れたり、曇ったり、雨が降ったりと色々なことに会ったと思います。それは、本やネットでは体験できない、来てみないとわからない多くの事実、歴史、そして希望でした。みんながカンボジアに行く前に思っていた「豊かな国・日本、貧しい国・カンボジア」というイメージは完全にひっくり返ったのではないのでしょうか？日本の中から見ているだけではわからないこと、本当の「豊かさ」ってなんだろう？日本に戻った時、今までの当たり前の日常が違って見えませんでしたか？

みなさんが一番思い出として心に残っているのはなんですか？ポルポトの負の歴史、アンコールワットの偉大な遺産、プノンペン騒がしい街、マーケットでのショッピング、トンレサップ湖での水上生活の様子、路上で食べた蜘蛛やサソリの味、パブストリートで食べたイタリアン!？、そして、トロピアンコ村で遊んだ子供達の笑顔？みなさんの心に残ったその「何か」を、ぜひ忘れずにいてください。

そして、一緒に行った仲間との日々。お互いに心を通わせて、助け合いながらの行動が安全でスムーズな旅へと導きました。ほんとにみんな仲が良かったですね！

今回のカンボジア研修はいろいろな人の助けがあってこそでした。特に、初めから終わりまでサポートしてくれたコーディネーターのティダ、ガイドの石田さん、きんちゃん、そしていつも陽気な運転手のロー。トロピアンコ村のダンスパーティはみんなとっても盛り上がってましたね！！

さあ、みなさんは目撃者です。カンボジアで観てきたこと、感じてきたこと、体験してきたことすべてをこれからの人生の糧にしてください。みなさんのこれからの人生がとても楽しみです。

カンボジア引率リーダー 豊田洋一